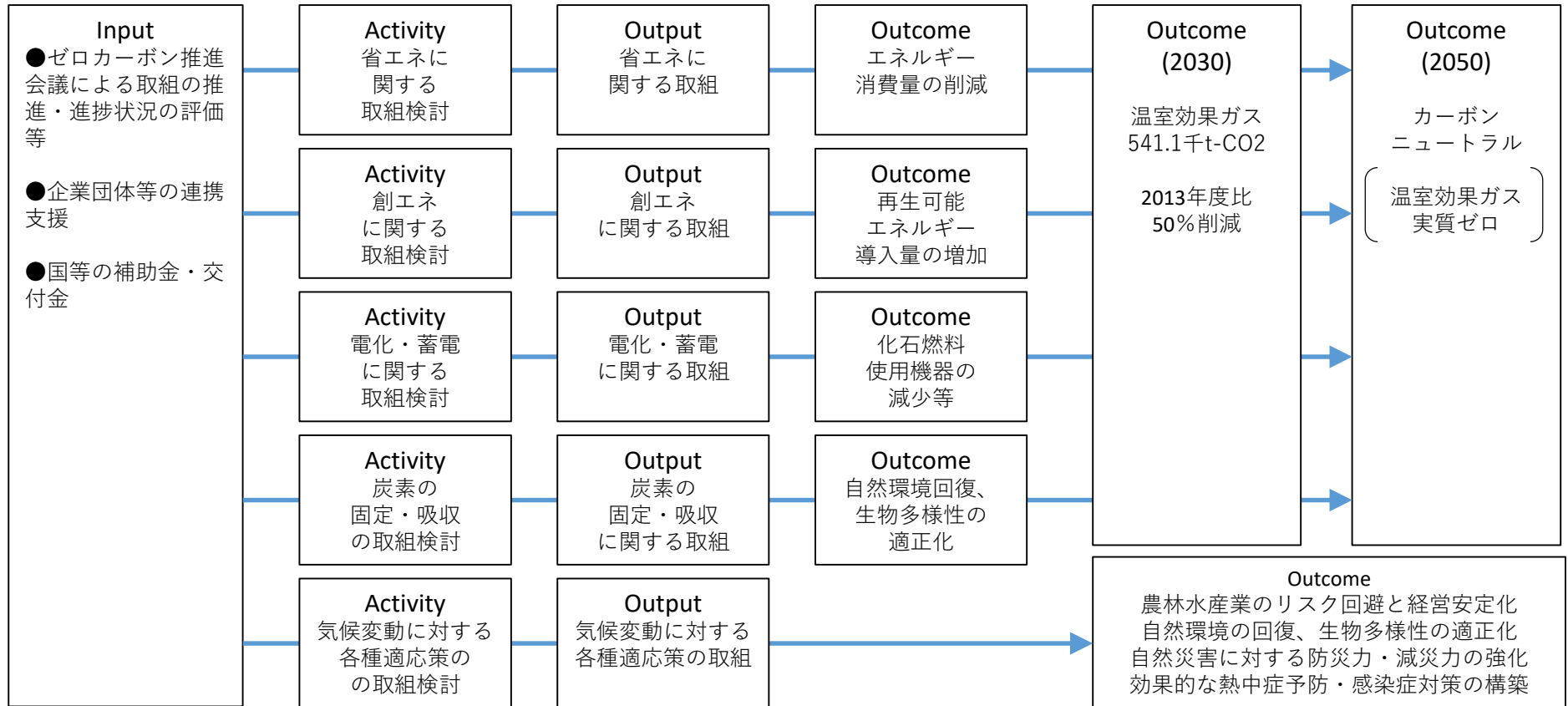


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（カーボンニュートラルをめざす計画の推進[地球温暖化対策事業]）

担当課（内線）	環境保全課（内線2507）	個別目標の方向性	省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める
重点目標	重点目標3 都市課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
令和6年3月、岸和田市地球温暖化対策実行計画の区域施策編改定、事務事業編改定を予定。国の政策同様、2030年温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）、さらに50%の高みに向けて挑戦するうえ、2050年カーボンニュートラルの実現を目標とする。 市民、事業所、行政のいずれもQOLや事業効率を維持・向上させながらの目標達成は極めて困難なであり、あらゆる関係者の主体性が必要。特に行政は率先した取組が求められている。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 2030年度における市域の温室効果ガス排出量を50%削減（2013年度比） 【成果に向けての各年度の進め方】 岸和田市環境計画等推進会議において、岸和田市地球温暖化対策実行計画に基づく取組の推進と進捗管理、意識改革（職員研修を含む）、予算措置の情報収集等。 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 岸和田市環境計画等推進会議（庁内組織）の体制変更に伴うゼロカーボン推進会議の廃止、岸和田市環境計画等推進会議の開催 岸和田市環境審議会（諮問機関）委員への進捗報告及び意見聴取	
R 6 年度の事業費（内訳）			
－ 千円 ※計画の進行管理にかかる事務費はなし ※岸和田市地球温暖化対策実行計画に基づく各取組の事業費は、個別所管事業の中で整理しており、本事業計画の進捗管理は生物多様性保全、公害対策などとともに包括的に実施。			
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	
現状事業費は発生する予定なし		市域全体の温室効果ガス排出量 2020年度 804.2千t-CO2 ➡2030年度 541.1千t-CO2 2050年度 実質ゼロ 事業者たる岸和田市の温室効果ガス排出量 2020年度 17,319t-CO2 ➡2030年度 12,182t-CO2 2050年度 実質ゼロ	
		成果・指標が未達成の場合の取扱い	
		本市の2050カーボンニュートラルは国策（地球温暖化対策計画）と連動するものであって、未達成の場合には国や都道府県によるフォローアップ等が行われるものと予想される。	

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（カーボンニュートラルをめざす計画の策定・推進[地球温暖化対策事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



※ごく一部を除き、Outputは本体事業（各担当課が行う事業）の取組に付随・連動する
 ※ごく一部を除き、Outcomeは本体事業（各担当課が行う事業）の成果を併せて獲得する。

その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

温室効果ガス排出量の削減だけを単純に追求することは、過度の支出増加、市民や職員のQOL低下、事業者の経営圧迫などにつながりかねないことから、副次的（若しくは温室効果ガス削減を上回る主要な）成果と継続性に留意する必要がある。

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 温室効果ガス排出を削減するための施策の検討、目標管理、検証を継続して実施し、温室効果ガスの排出を2013年度比で2030年度46%削減、さらに50%の高みに向けて挑戦し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す。

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 国の方針や、ゼロカーボンシティ宣言を踏まえて、本市の温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）の削減目標を設定する。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 岸和田市環境計画等推進会議を体制変更のうえ、ゼロカーボン推進会議を廃し、適正な全庁的推進体制を構築した。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
	市民 1 人当たりの年間温室効果ガス排出量	t-CO2	5.4（2013）	2.7（2030）	4.0（2021）
	再生可能エネルギーの発電電力量	MWh	124,485（2021）	370,853（2030）	126,962

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 実現性の高い再生可能エネルギー導入手段の見極め

■ 課題分析

- ・ 市場における売電価格の低下
- ・ 各種取組の真の効果とリスクの情報不足
- ・ カーボンニュートラル推進の必要性に関する周知の不足

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ ロジックモデルどおり進捗している。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 各種取組の真の効果とリスクの研究
- ・ 更なるカーボンニュートラル推進の必要性に関する周知